

## 安保関連法案反対の名市大「声明」

「安保国会」はまさにヤマ場を迎えている。国民多数の反対の声を無視して、参議院で採決が強行されようとしている。許せない。「本当に止める」と、全国各地でじつに幅広い人たちが反対の声をあげている。

わが「ふるさと」名古屋市立大で安保関連法案に反対する「声明」が13日夜に公表された。やっと「やった」という感じだ。わたしも「呼びかけ人」の1人ではあるが、たいした「お役」に立てなかった。先月末、名大の「集い」に参加して、大学の反対「声明」公表に名市大の名がなく、残念に思っていたので、とりあえず安堵した。ぎりぎりの局面で、「声明」を公表するところが、名市大らしいかもしれない。

下記に「声明」の本文だけを掲載しておきたい。

政府が国会に提出した「平和安全法制整備法案」と「国際平和支援法案」はすでに衆議院で強行採決され、7月から参議院(特別委員会)において審議されています。これまでの審議を通してこれら法案は、アメリカなど他国が海外で行う軍事行動に、日本の自衛隊が協力し加担していくものであり、憲法9条に違反していることが一層明らかになっています。

政府が強調する「武力行使は限定的」であるどころか、この法案は自衛隊の武力行使を際限なく広げ、「専守防衛」を大きく踏み越えていくことになります。そして、60年以上にわたって積み重ねられてきた「集団的自衛権の行使は憲法違反」という歴代の政府解釈を覆し、自衛隊がアメリカの侵略戦争に参戦する状況を生み出します。

私たちは、かつて日本が行った侵略戦争の際に、多くの学徒を戦地へ送ってしまいました。名古屋市立大学4キャンパスの一つである滝子キャンパスは、旧制第八高等学校の出陣学徒壮行会場になったところです。他方で、太平洋戦争末期には、軍需産業の集中する名古屋とその近郊は、空襲により極めて大きな被害を被り、多くの一般市民が犠牲になりました。

私たちは、こうした歴史を深く反省し、戦後は憲法9条とともに歩み、人間の尊厳が保障される社会の建設にむけて、世界平和の礎たらんと、教育研究活動に携わってきました。

私たちは、再び若者を戦地へ送り出すような状況を作り出すことを、絶対に認めることはできません。憲法9条に反する安全保障関連法案の廃案を強く求めます。

以上

2015年9月13日

(2015年9月15日)

